

東日本大震災について、私たちの考えたこと。

東京大学前期日程合格発表の翌日のことでした。

3月11日、マグニチュード9の大地震が東日本を襲いました。

地震は津波を誘発し多くの町々が壊滅的な状況に追い込まれ、

今なお多くの人々が苦しい生活を強いられています。

こうした中、東大は入学式の中止を発表。

オリエンテーション合宿も

見送られることになりました。

そんな彼ら彼女らは、いったいどんなことを考え

震災後の数日間を過ごしていたのか…。

その率直な思いを聞きました。

(取材日／3月27日・28日・29日)

「私にできることは何だろう？」と考えた結果「まずは大学生になってしっかり勉強するしかない」と思い、その気持ちを強く心に刻んでいます。これまで私は、大学に入るためにだけに勉強してきました。まだ、将来的に何をやるかは決まっています。ただ、何をやるにしても人と係わる力を大学生活の中で養い、社会の役に立てる人間になりたいと思っています。(文系・女子)

法律を学びたいと思い東大を選び、ずっと法律しか視野にありませんでした。でも、今回のような震災の時には「法律だけではあまり意味をなさないな」と思っちゃったんです。今求められているものは、電力にしても原子力にしても、理系分野のことがほとんどじゃないですか。ですから大学では理系分野のことも積極的に学んでいきたいと思っています。(文系・男子)

私は理系を志望したのですが、文転を考えています。もともと心理学に興味があって医療系心理学を視野に入れ理系を志望したのですが、今回のような震災で大切なのは教育心理学など子どものメンタルケアじゃないかなと。もちろん決定したわけではありませんが、大学の1、2年でしっかり勉強をしてどちらに行くかを決めたいと思っています。(理系・女子)

僕は弁護士を目指しているのですが、まずはそれに向けてしっかり学んで行きたいと思っています。ただ、勉強をするにしても何をやるにしても、物事を先送りせず「今できることは今すぐやろう」と思うようになりました。幸いにも僕は、そうした機会に恵まれているわけですから。(文系・男子)

地震当日から翌日くらいまではテレビに釘付け状態でした。それ以降はインターネットで現地の情報収集をしましたが、これだけ悲惨な状況が起こっているのに、何も出来ない自分に歯がゆい思いをしながら今日に至っています。(理系・男子)

今何ができるかを考えるのではなく、この先僕らが日本のためにどう役立てるかを考える方が大事だと思います。ボランティアをやることも大事だけれど、僕たちは勉強をすべきです。人助けは誰かに任せておけばいいというのではなく、今はしっかり勉強をして、その勉強で培ったものを社会に還元できるように努力することが、今僕らにできることです。(理系・男子)

同じ東京大学に受かった人でも、被災地に実家がある人は「とても幸せな気持ちになれないだろうな」という思いもあって何とも言えない気持ちになりました。でも、だからこそ何の障害もなく大学に進める自分たちは「しっかり学ばなければならないな」という気持ちが一層強くなりました。(文系・男子)

東北に知り合いがいるわけではありませんし、直接大きな被害にあったわけでもないのですが、テレビの映像を見ても心の底から被災者の方々の気持ちになって考えることはできません。ただ、これから自分にできることを考えた時、原子力発電の怖さを改めて知って、新しいエネルギーの開発ということをやっすらと考えるようになりました。(理系・女子)

世界史で世界恐慌時の『挙国一致内閣』というのが出てきますが、こういう時こそ力を合わせる必要が大事なんだろうと思っています。この危機を立て直していくのは、きっと私たちの世代になると思うので「頑張らない」と思います。今は専門知識もないし技術もないので何もできません。ですので、早く大学でいろんなことを勉強したいと思っています。(文系・女子)

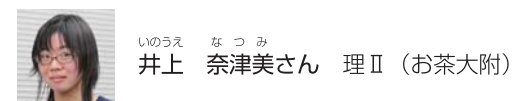
原子力発電について僕は推進派だったのですが、今回の一件で「果たしてどうなのかな？」と思うようになりました。確かに化石燃料はどんどんなくなっていくわけで、原子力に頼らざるを得ないのだろうと考えていましたが、日本のように地震の多い国ではリスクが高いのかなと。エネルギーの問題はこれからの僕らに課せられた大きな宿題だと思っています。(文系・男子)

原発の機能停止はこれからの日本の経済を考える上で深刻な問題だと思います。原発が復旧するまでどうエネルギーを補填していくかという問題もあるし、新しく作るにしてもどこに作るかという問題が出てきます。そう考えると本当に原発に頼るべきなのかという疑問も生まれ「新しいエネルギー供給が求められるんだろうな」と思いながらニュースを見ていました。(理系・男子)

5期生 東大理系合格者インタビュー

合格発表からおよそ2週間。グノーブルにて2011年東大理系合格者の座談会をおこないました。集まってくれた卒業生は10名。日ごろ机を並べて互いの実力を認め合い、高め合ってきた生徒たちは、東大受験を目指してグノーブルに何を求め、どんなことを体得し、そしてどう評価していたのか。受験が終わり晴れて合格を勝ち取った今、思いの丈を話してもらいました。（聞き手／吉村高廣）

出席者



井上 奈津美さん 理Ⅱ（お茶大附）



奥戸 道子さん 理Ⅰ（桜蔭）



恩河 大くん 理Ⅰ（開成）



加藤 夕葵さん 理Ⅱ（女子学院）



小林 勇也くん 理Ⅰ（私立武蔵）



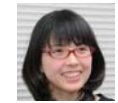
田中 慧里奈さん 理Ⅱ（女子学院）



玉光 未侑くん 理Ⅰ（学芸大附）



中村 昂くん 理Ⅰ（世田谷学園）



平林 佳奈さん 理Ⅱ（女子学院）



安田 陽平くん 理Ⅲ（栄東）

《グノーブルを知ったきっかけは？》

恩河：高1の時にネットで英語の塾を調べていて、その時グノを知りました。

中村：僕は高2の春に友人から紹介され、春期講習を受けて決めました。

玉光：理Ⅲに進学した高校の先輩*がグノーブルを凄く高く評価していたので来てみました。高2の秋でした。

*梶原 健さん（学芸大附→東大理Ⅲ）

井上：私も高2の時です。部活のとても頭の良い友人がグノに通っていて、強く推薦してくれたことがきっかけです。

小林：中学の頃母が「いい塾らしい」という噂を聞きつけてきて、まず数学から受講しました。

平林：私は兄の推薦で、中学から英語と数学、国語の3教科でお世話になりました。

加藤：小学生の時に通っていた塾の先生の勧めで来てみて、先生がとても良かったので決めました。

田中：グノにはJ Gの生徒が多く通っていたのと、大人数の授業はいやだったからです。

奥戸：私は高1の冬から英語、その後国語でお世話になりました。母が中山先生の噂を聞いて、積極的に勧めてくれたのがきっかけです。

安田：実は別の数学の塾を探して新宿を歩いていた時、偶然グノの警備員さんを見かけて…。名前は知っていたので気まぐれで英語の講習を申し込んだことがグノとの出会いです。

《グノーブルに決めた理由は何？》

中村：最初の春期講習を受けた時の感触です。当然いくつかの塾を見てまわりましたが「これならしっかり続けられる」と思えたのはグノだけでした。

小林：決めたのは母親ですが、続けられた理由は、やはり先生との距離感です。僕は中学時代からお世話に

なっていますが、最初の頃は何しろ纒田先生の授業が楽しくて。中学生の目線に合わせてくれて、それでいて確実に力がつくのは、やはり目配りができる先生のプロ意識と少人数制ならではの特徴だと思います。

恩河：塾の基本方針と信念が明確だったところ。それと、初めて受けた夏期講習で、最初から名前でも、しかも正しい読み方で呼んでくれたことをとても嬉しく思いました。僕の名字はたいてい間違われるので（笑）。また、英文を読みながらいろんな知識がどんどん入って来る授業が楽しくて、「ここしかない」と思いました。

井上：私の場合は大人数の塾や予備校は苦手、より先生と近い距離で学ぶことが前提でした。また、塾の小冊子を読んでいたら「いろんな塾を検討してグノーブルに来ました」という声が随分あったので「ここよりいい塾はたぶんないだろうな」と思い決めました。



井上 奈津美さん 理Ⅱ（お茶大附）

玉光：僕は帰国生なのですが、英文を頭から読みこなしていくというネイティブ的感覚の授業がしっくりきたところ。です。

加藤：勉強嫌いな私の場合、たぶん大人数の塾や予備校に通ってもだめ

だったと思います。今考えると中学生の頃は、数学の纒田先生と英語の関田先生には、ほぼ家庭教師のような感じでお世話になりました。中学時代にグノで両先生との出会いがなければ、今私はここにいませんでした。

田中：やっぱり少人数だったところですね。質問もどんどんできましたし。特に私の場合、数学は苦手でしたから。

平林：体験授業を受けて、楽しさを教えてくれる塾だと思いました。授業を1度受ければ、先生の質やその塾の風土のようなものが分かります。授業が退屈だと時間が過ぎるのがとても長く感じられるし、寝ている人すらいるほどです。その点グノの場合、演習→添削→解説という流れで授業をおこなうので、自分で頭を使えるし、達成感も感じられました。

奥戸：私の場合は、その先生を好きになれるかどうかと、授業が楽しいかどうかが相当大的な比重を占めます。結局のところ先生を好きになれなければやる気も起こりませんから。塾や先生からやらされても楽しくないし、身につかないと思います。
安田：僕の場合は入る時は完全にフィーリングでした。グノーブルは居心地もいいし、1回授業を受けただけでも、「なんか伸びたな」って実感できて「ここでやって行こう」と思えました。

《グノーブルの良かったところは？》

玉光：グノの英語の特徴に、英文を頭から読みこなしていくというものがありますが、中3までアメリカにいた僕にとっては英文を頭から読んでいって意味をとるのは当然でした。でも、いくらずらずら読めるからといっても難度の高い大人が読む英文は話は別です。グノでは難しい英文の内容を深く、そして限りなくネイ

ティブ的発想で学べたところが、僕にとって一番のメリットでした。

井上：英語も数学も、グノでは緊張感を持って授業に臨めたところが良かったです。東大の本番でも似たような緊張感がありましたが、今思うとグノは私を本当に強くしてくれたと思います。

恩河：英文が速く読めないところが自分のウイークポイントだと分かっていたので、グノで教わる、英文を頭から読みこなす方法はとても役立ちました。

あと、語源までさかのぼって単語を覚えていくというのは非常に有機的な勉強方法で、単語帳を使って必死に覚えるようなことをしなくても自然と語彙を増やすことができました。また、こうした授業は中山先生の授業だけでなく、すべての先生方の共通した指導方針となっていたところに塾としての質の高さを感じました。



小林 勇也くん 理Ⅰ（私立武蔵）

小林：他でも数学を受けたことがありますが、宿題をやっておこなって先生がその解説をするという授業だったんです。こうしたやり方が普通なのかかもしれませんが、これでは実戦力が身につかないような気がします。グノの場合は英語も同じですが、数

5 期生 東大理系合格者インタビュー

学でも授業の中で演習をおこない、即、解説が始まる形式なので、前向きになれるすし、理解度も全然違いました。また先生たちは、生徒一人ひとりの力をよく理解してくれているので、無駄な説明がなく肝心なところだけを教えてくださいとところが良かったです。

玉光：あと、G S L（グノーブル英語音声教材）はネイティブが自然に言葉を使う感覚に導いてくれるとてもいい音声教材だったと思います。英文を速く読むには英語的な流れが身につけている必要があります。実際に音声を聞きながら発音して、その言葉を頭の中で再現する訓練を繰り返すことで、読むスピードが上がっていくのを実感しました。とても理にかなった勉強方法だったと思います。



玉光 未侑くん 理Ⅰ（学芸大附）

中村：なんといっても音読です。ゆくゆくは留学したいと考えているので、受験では直接問われないけれど話せる力をずっと意識して常に音読をやっていました。最初のうちは口がまわらなくてG S Lについて行けませんでした。英語を話すための「筋肉」をつける訓練にもなったと思います。また同じ英文を何度も口に出して読むことで、英文ごと頭に入っていく感覚があって、多少分か

らない単語が出てきたとしても文章全体の意味がとれるようになりました。

安田：確かに、内容理解を伴った音読は効果があります。慣れるに従って、英語の語順のまま読むことが普通にできてきます。素早く意味がとれるようになるしストレスがありません。返り読みをしながら意味をとっていく勉強方法がいかにナンセンスだったかと思います。

小林：音読って疲れますよね。で、通常授業のときは気のすむまではやれなくて、でも、講習とか休みのときはしっかりやるわけです。そうするとなぜか、授業の演習でも手応えが変わるんです。これは、普段は英文を目で追っていても、分からないところを読み飛ばしている証拠だだと思います。英文を声に出して読むことの大切さを痛感しました。

安田：あと、これは周りの人のレベルが高かったからこそ実現できたことだと思いますが、僕にとっては量と質のバランスが非常に良かったと思います。入塾した当初は演習プリントが時間内にぎんぎん終わらず相当苦戦していました。ところがやっているうちに問題を解くスピードが上がってきて、さほど追い立てられる感覚を持つこともなく問題を解けるようになりました。よく「グノで学ぶと自然と英語ができるようになる」という話を聞きますが、僕の場合も、まさにそんな感じで英語の力を大きく伸ばしていくことができました。

奥戸：他の塾ですと授業中に当たり前のことや分かりきったことを説明したりしますよね。私はそれがすごく無駄な時間だと思うのです。その点グノの場合は先生が全員の力を把握しているので、全ての時間が、それこそ1分1秒が大事な時間でした。本当に密度の濃い授業でした。

たとえ受験とは直接関係のないことでも、英文の背景的なことで、中山先生の話す話には必ず大事な内容が潜んでいるので、全てを聞きもらすまいと誰もが真剣に授業に臨んでいました。そこがグノの何より素晴らしいところだったと思います。



平林 佳奈さん 理Ⅱ（女子学院）

平林：直前講習のときに、科学雑誌のサイエンスで発表されたばかりの「テスト不安」の論文を、中山先生が東大型の問題にアレンジして扱ってくださいました。テストの直前に自分の不安を10分間、箇条書きにすると不安が軽減されるという内容で、私は実際にそれを試してみたんです。すると本当に緊張がほぐれて平常心で私大にも東大にも臨むことができました。中山先生の授業は本当にバラエティ豊かな知識や知恵を授けてくれる授業でした。実用的な話題から時事的な話題や学術的な話題まで幅広く英語で触れられ、それをとても楽しく分かりやすく解説していただいたんです。受験のためだけに受けた勉強でありながらも、学ぶことは楽しいことと感じられたのだろうし、主体的に勉強に取り組む姿勢が身についたのだと思います。他の塾や予備校ではありえないでしょうね。

田中：私は、英文の主旨をいつも考えながら読む姿勢を学べたことが一番の収穫でした。他の英語の授業では構文解析や文法解説が中心で、何のために英語を読めるように勉強するのか曖昧で…。要約の添削でも、先生のコメントから、筆者の言いたいことを正確に読み取ることが何より大切という点を学んだように思います。



田中 慧里奈さん 理Ⅱ（女子学院）

加藤：私の場合はグノに行くことが生活の一部になっていたので「どこが良かったか？」と改めて聞かれても悩んでしまいます。あえて言うなら「ここは塾だ」というのではなく、いろんな面からサポートしてくれて、まるごとお世話になったところでしょうか。私のことをしっかり見てくれない塾であつたら、きっと周りの雰囲気流されるまま力もつかなかったと思いますが、自分のことを忘れられていないという安心感と、逆に「見られている」という緊張感がバランス良くあったからこそ今の自分があるのだと思っています。

《東大受験で実際に役立ったことは？》
奥戸：今回の東大英語は、従来の1 (A)、1 (B)に加えて1 (C)があつて

問題が増えていたんです。1 (B)と1 (C)を残して他の問題をやって、戻ってきた時には残り時間が5分。でも、グノで鍛えられていたので、英文でも、日本語みたいに斜め読みができるようになっていましたから、5分でちゃんとできました(笑)。

平林：グノに来て長文ができるようになったな、と思っているんですけど、それは、授業の解説で内容的に深く細かいところまで理解している英文を何度も音読するように言われていたからです。一文一文もよく分かり、その上で全体の流れもしっかりつかんで読めるようになったのは、本当にグノのお陰です。深い内容理解や、論理展開の把握を必要とする東大の長文克服にはきわめて実践的な指導だったと思います。

田中：そもそもグノの授業で扱う英文は普段から量も多いし難しいので、東大の問題量が増えてもさほど驚きはしませんでしたね。日ごろから「速く読まなきゃ」という意識が定着していて返り読みは随分前に卒業していましたから、今回のように想定外の問題に直面しても、グノ生ならさほど慌てることもなく対応できたと思います。

加藤：以前友だちが通っている予備校のプリントを見せてもらったことがあるんですが、これは形容詞句でこっちは副詞節で、といちいち考えながら英語を学んでいる様子だったんです。そのやり方だと東大の英語はとても時間が足りないんじゃないでしょうか。やはり英文を読むときには、構文を解析するんじゃなくて、内容を理解することに重点を置くべきだと思います。そうした意味でグノの勉強方法は最良だったと思います。

安田：文法知識は必要ないというわけじゃないけれど、グノで英語を学んでいると「言葉を読むのにいちいち

ち理屈を考える必要はないない！」とも思えました。だって僕は日本語を読む場合、これが助詞で、こっちが副詞でなどと考えながら読んでいませんよね。英語だって本来はそうあるべきだと思います。

奥戸：グノーブルでは、下の学年では文法をきっちりやって、受験学年では文法をいちいち意識しなくてもいいように指導してくれます。『使える英語を学ぶ』という視点に立てば、グノは王道を行っていると思いますね。



奥戸 道子さん 理Ⅰ（校通）

恩河：今年の東大は読む量ばかりでなく、書く量も聞く量も多くなって、僕の場合正直なところ胸を張って「余裕でした」とは言えません。でも、英語に馴染む頭ができていたということもあって比較的スラスラ解けたと思います。基本的に東大の英語はテクニックではできないので、グノでの勉強方法は確実に役立ちました。

小林：そうしたことに付け加えると、英語が比較的苦手だった僕でもリスニングが奇跡的に1つのミスだったんです。リスニング力も音読で上がると思います。

中村：僕は私立も受けていて、ほとんど対策も立てずに受けたのですが十分対応できました。その時に感じ



5 期生 東大理系合格者インタビュー

たのがグノの英語は東大に特化したものじゃなく、どんな問題にも対応できるということです。本命の東大英語は確かに問題数が多くなっていますが焦ることなく取り組むことができました。逆に問題数が多くなったことで、他塾で学んできた人に「差をつけられたんじゃないかな」と思ったくらいです。



中村 昂くん 理Ⅰ（世田谷学園）

玉光：量が増えたことに関しては「僕が終わらないなら他の人も終わるわけがないだろう」というくらいの気持ちでいました。実質的に役立ったことと言えば、もちろん速く読めるようになったということもありますが、さっきも話が出ていましたが、文章全体の主旨や論理展開を見抜く、という問題が東大では中心で、それはグノでは毎回の授業で意識できるようにしていたんで本当に良かったと思います。

それから、作文も要約もいつも添削をしてもらっていたのでコツはつかめていて、本番でもうまくできたと思います。

あと、グノで日頃扱っている文章の方が東大より難しいので、本番の問題は途中でつかえることもなくスラリと読みました。

恩河：文章も難度も、時間的なキツ

さもグノの授業の方が上で、そういう意味でも高度なトレーニングを積ませてもらえました。

《授業効果を上げるには？》

恩河：なにしろ周りのレベルが高いので圧倒されることもありましたが、そうした環境に刺激されつつ、先生とフレンドリーな関係を築くことで

す。
小林：先生が自分の名前を覚えていてくれたり、実力をよく把握してくれているので、そんな先生の思いに応えようとする気持ちです。今考えるとやはり僕は、先生の接し方から力をもらっていた気がしています。

中村：授業を楽しめるように1週間をうまく使うことですね。要約とか英作は毎回添削してもらえるんで、そのとき良い評価をもらえるとモチベーションが上がります。

またグノの授業は受験勉強以外のことで多くの知識を得ることができます。そうしたことを洩らさず自分の中に取り込むような姿勢を保っていました。少しずつ、教養が蓄積されていくのを実感できることがとても嬉しかったです。

玉光：最初の頃は要約が全然できなかったのですが、その力が上がっていくのも含めて英語がどんどんできるようになっていくのが楽しくて、確かに授業は延長で長くなりますが、長いのが僕には良かったですね。楽しめたので。

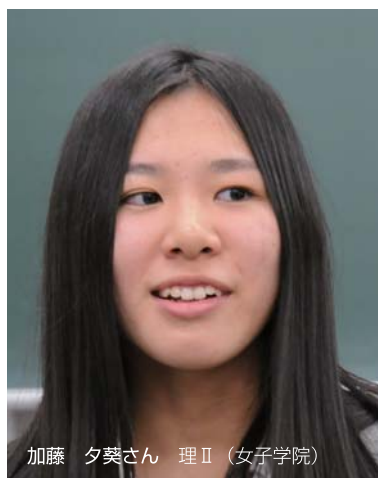
井上：周りの人が凄すぎて、一時期諦めの気持ちが芽生えてしまったこともあるんです。あの時に「せっかく実力のある人たちと一緒に学んでいるのだから自分ももっと頑張ろう」とすぐに立ち直ることができたら、もっと学ぶことが多かったんじゃないかと、私は少しだけ後悔しています。

平林：グノで学びきるためには、自分のペースを守り、何度も同じこと

を復習することだと思います。

田中：私も復習です。それと授業中に当てられて間違えてもめげないことです(笑)。

加藤：あまり偉そうなことは言えないんですけど、もともと勉強が嫌いだったので、グノ以外だったらそれ以上に嫌いになっていたと思います。膨大な量の宿題を課せられたり、頭ごなしに言われたりする塾だったらきっと耐えられなかったはずです。グノの先生たちは「スマートな接し方」をしてくれたので、自分なりのペースで勉強することができました。私に言えることは、先生方を信じること。これが大事だと思います。



加藤 夕葵さん 理Ⅱ（女子学院）

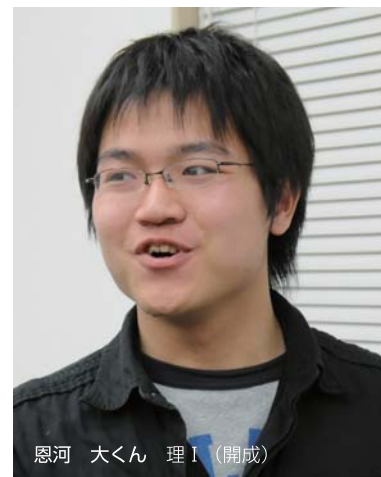
奥戸：やはりグノでやっていこうと思うなら、当てられて答えられなかったり、間違ったりしても落ち込まないことです。最初の添削の点数が悪くて出鼻をくじかれても頑張って授業を受けるとか、めげない力も大事です(笑)。

安田：僕もめげないことが何よりだと思います。当てられて答えられないと本当にへこむんです。まして別の人ですんなり答えようものならそれはもう…。でも、負けず嫌いの性格のせいか、「絶対次はとってやろう」っていつも前向きな気持ちにな

っていました。

《東大を目指す後輩にアドバイスを》

井上：やはりグノーブルのような良い環境に恵まれていることをポジティブに捉えて自信を持つことです。自分の努力とグノの先生を信じて前向きに頑張っ



恩河 大くん 理Ⅰ（開成）

ていました。
玉光：明確な目的意識を持って勉強することです。たとえば、最初は問題集を一通りやってただ〇×をつけて終わってもいいと思います。受験問題がどんなものかを知るのが目的ですから。でも、2回目には自分がどこで間違えて、それをどう修正すればいいかを考え、同じミスを繰り返さないようにすることが大事です。そんな目的意識を持って勉強をすれば実力は伸びていくと思います。またそう考えることで勉強のやり方自体も変わってきて、どんどん良い方向に向かって行くはず。目的というのは時期によっても変わってくるので「今はこれをやらなきゃいけない」と決めたら、集中してその目的達成に向けて励むことが大切です。

中村：自分を知ることじゃないでしょうか。たとえば集中力は何分持つのか、とか、こういうことをやれば単語を覚えられるとか、自分の気づ

いていないクセを探すことです。そしてもう1つは敵を知ることです。目的は東大に合格することですので、ある程度の傾向を把握して勉強に臨むことも大事だと僕は思います。

小林：高過ぎるくらいの目標を持つことです。今の実力以上の目標を見据えて学んでいけば自ずとそのレベルに達するはず。あとはいい意味で先生を活用することです。どんな質問をして、たくさんヒントをもらおうといいでしょう。またグノはそれができる塾なので、先生をどんどん利用しましょう。

恩河：よく「合格の秘訣は何ですか？」といった質問がありますよね。僕の自論は「自分で見つけるべき」というものです。勉強方法なんて人それぞれですから、いろんな意見を参考にしながら自分なりの勉強方法を組み立てていくことが大事なことではないでしょうか。

また、理系を目指すなら理科や数学、工学などが好きははずです。好きだからこそ深く突き詰めたいと思うのだろうし、そのための大学だと思います。「とりあえず理系」という発想はやめて、「好き」という気持ちを大切にしていけば、どんなに苦しい受験勉強でもその気持ちが心のより所になるはず。

安田：受験という枠にとらわれ過ぎない勉強をすることではないでしょうか。グノだと文章の内容自体が将来に役立つものを扱っているので、それを知り理解するだけでも、自分の身になるところが随分ありました。僕は心理学や哲学に対して、グノで学びながら大きな興味を持ちましたし、それを原文で直接触れられたことは、かなり自分の糧になったと思います。

奥戸：自分がやるべきことをしっかりやる。これに尽きます。たとえば何年もさかのぼって過去問をやると

かじゃなくて、幅広い知識や物の見方を学べるグノの復習をやった方が東大受験にも、本来なぜ勉強するかを考えても絶対いいと私は思います。

加藤：私は英語の問題集や参考書は買ったこともないんですけど(笑)、どの科目も問題集を使い古すことだけが勉強じゃないと思います。例えば、英語の場合、私たちの知らない史実や文化、思想が背景にあったりするし、それは狭い範囲の受験勉強では分からないことです。幅広く興味を持って、楽しんで学んでいくことが大事だと思います。

田中：受験に限っても、あまり東大ということにとらわれ過ぎずに勉強することが大事なことだと思います。事実、東大であろうが私大であろうが直前まではやることは一緒です。グノで学んでいることをしっかりやっていたれば本番でも必ず力を発揮できます。

平林：基礎を徹底して、分からないところは分からないままにせず、質問して解決し、諦めずに最後まで頑張ること。そんな当たり前の姿勢を貫くことが大切でしょう。また、将来やりたいことを思い浮かべたり、応援してくれる人の顔を思い浮かべたりしながら勉強すれば、たとえ辛くなったとしても頑張れると思います。



安田 陽平くん 理Ⅲ（栄東）



5期生 東大文系合格者インタビュー

理系合格者の座談会に続いておこなった東大文系合格者の座談会には、8名の卒業生が集まってくれました。中高一貫校の生徒が多い中、都立高校からグノーブルに通い合格を勝ち取った生徒が1名。あくまでも東大にこだわって、浪人の末に合格を果たした生徒が2名。東大受験について、グノーブルについて、さまざまな立場から語ってもらいました。

（聞き手／吉村高廣）

出席者



かしの 梶野 平くん 文Ⅰ（開成）



てい 鄭 悠野くん 文Ⅰ（都立日比谷）



なおい 直井 柊平くん 文Ⅰ（筑駒）



なかじま 中島 慎太郎くん 文Ⅰ（開成）



なや 納 朋子さん 文Ⅲ（桜蔭）



まなべ 真鍋 朋子さん 文Ⅲ（香川県大手前）



もり 森 尚子さん 文Ⅱ（雙葉）



やまさき 山崎 和人くん 文Ⅰ（駒東）

《グノーブルを知ったきっかけは？》

直井：中2の時に他塾のテストで、英語の成績が相当ひどくて一番下のクラスに相当する点だったんです。母親が「英語も塾に行きなさい！」と言い出してグノを探して来たんです。

山崎：僕は、高1になったら英語と数学はどこか塾に行こうと決めていました。そこで中3の後半になって、友だちにリサーチしたところ「グノーブルはかなりいい」と太鼓判を押してくれたのがきっかけです。

森：私も学校の友だちの推薦です。高2の夏に他の塾の授業を受けてみたら、予習をして、ただ答え合わせをするやり方で、これだと飽きちゃうのでそこはやめました。でも東大を受験するには塾に入らないと思いい友達に相談したら「グノーブルいいよ」と勧められて、実際に来てみたら「あ、いいじゃん」と思えてそのまま入りました。

眞鍋：私は浪人をするために香川県から出てきていたので、東京の詳しい塾事情は知りませんでした。上京して通い始めた予備校で、とてもよく英語ができる友だちができて「なんでそんなに英語ができるの？」と聞いたところ「グノーブルに行ってたから」という答えが返ってきて、初めてグノのことを知りました。

納：姉（学芸大附→一橋商）がグノの卒業生です。中学のころ英語の成績があり得ないほど悪くて、姉から「グノなら絶対なんとかしてくれるはず！」と言われていたんです。そこでまず、英語を高1から学び始め、高2では現代文も受講して新高3になってからは数学でもお世話になっていました。

鄭：高校受験の時にお世話になっていた塾の先生がグノの英語を勧めてくれたんです。とても信頼できる先生だったので、その言葉を信じてみ

ようと思ったのがきっかけで、結局英数を受講していました。

榎野：僕は兄（筑駒→東大文Ⅰ）の推薦です。兄は中山先生の英語と、行村先生の国語の信奉者でしたので、高1の冬に僕が「そろそろ塾に行こうかな」と言った時は、1も2もなくグノを強烈にプッシュしてくれました。英数国すべてグノでした。

中島：中3の終わりごろに先にグノに入っていた学校の友だちに誘われて、高1から英語を受講しました。



納 朋子さん 文Ⅲ（桜蔭）

《学校でグノーブルの評判は？》

榎野：学校では『グノ＝英語』でした。同級生はもちろん、先輩たちもグノで英語を学んでいる人が結構いましたし。でも、僕のように数学や国語もグノーブルというのは珍しかったと思います。英語以外の教科については僕が広めていたようなところがありました（笑）。

中島：僕の印象では『英語』というより『中山先生』の評判が高かったような気がしますね。学校の実力テストでもグノ生が圧倒的に上位にいたので、中山先生の評判はどんどん

上がって行きました。

鄭：周りではあまり聞かなかったし、日比谷では僕1人だけ通っているんだと思っていました。ところがしばらくすると同級生でも通っていることが分ったり、実は先輩にもグノで英語を学んで東大に受かった人がいることが判明してきたんです。決して知名度が高かったわけではありませんが、いざ目を向けてみると“できる人はグノに通っている”という感じでした。

納：高1のころはグノに通っている人が少なく、通っている友だち同士で「グノっていいよね！」と言いつ合っているくらいだったんです。ところが高3あたりになると、あちこちで「グノーブル」という名前が聞かれるようになったんです。最初に入った塾が続かなくて途中から転塾する人も随分いるんだなと思ったことがあります。

直井：僕自身が英語がすごく伸びたので、学校でもよく友だちにグノの話をしていました。でも、筑駒の場合、中学入学と同時に、あるいは高校に入ってからすぐ、多くの人は決まった東大専門受験塾に行く傾向があるので、他の塾の話題が出にくい環境だったと思います。

でも、そのやり方で力がつかなかった一年上の先輩が受験学年でグノに移ったらメキメキ力がついて、東大の本番でも9.5点取って評判になっていました。

山崎：うちの学校も最初は「グノーブルって何？」って感じでした。ところが僕が入って1年ほどたったところから駒東生がどどっと入って、そのころから知名度が上がりました。

僕らの学校でも東大専門塾に行く人が結構いましたが、「グノは英語が伸びる」という評判になっていました。

森：うちの学校では知名度もありま

したし、評判も良かったです。ただちょっと『東大受験』というイメージが強過ぎて二の足を踏む人が多かったように思います。本当はそんなことないんですけどね。

《塾を決める基準はどこ？》

直井：授業が興味深いことが大事なことだと思います。僕がグノに決めたのも、そして、通い続けることができたのも、やっぱり授業が面白かったからです。つまらなければ自分からやろうという気が起こらないと思います。たとえば、グノだと授業の最初に演習やって、それを添削してもらるところから始まるので、これがいい力試しになるんです。授業の最初にいつも「やるぞ」ってモチベーションが上がりましたね。

山崎：普通の塾だと宿題をやってきて、前にいる先生が淡々と答え合わせと解説、というスタイルだと思うんです。グノだと教室全体で皆が参加していると感じられるんです。名前もすぐに覚えてもらえるし、演習の質と量もそろっていて、スピードも速くて、授業に緊張感がありました。



直井 柊平くん 文Ⅰ（筑駒）

5 期生 東大文系合格者インタビュー

森：やはり実際の授業を体験してみて決めることが大切だと思います。塾の中には噂と実態がぜんぜん違うということもあります。単に東大の合格者数を誇っていたり、有名校の生徒が数多く通うと言われる塾であっても、そこが自分にピッタリ合うかどうかは授業を受けてみなくては分かりません。

たとえば私の場合、グノの冬期講習を受けてみて、周りの人のレベルの高さが手にとるように分かることが気に入りました。気の遠くなるぐらい優秀な人が一人とか二人とかじゃなくて沢山いました。周りの人が自分より実力が劣っていると感じる環境だったら、調子に乗って「あ、もしかして私、できるかも」と勘違いしたかも知れません。

それから、少人数制だからこういうことも分かるのだと思います。多くの人数の中に紛れてしまうと、先生も一方的に講義をするだけで自分で自分の相対的な実力を把握できません。



森 尚子さん 文Ⅱ（雙葉）

樫野：僕は先生を重視していました。

僕の場合は、それに尽きます。

鄭：先生との距離感です。僕は1度グノを離れて他の予備校に通ったことがあるのですが、常に不安がつきまといすぐに後悔するようになりました。大教室でやる授業は先生が一人ひとりに添削をしてくれるようなことはありませんし、自分の勉強の進み具合を把握してくれるようなことも一切ありません。そんなこともあって再びグノに戻ったという経験をしています。

納：中学受験の時に通っていた塾も少人数制だったので、私にとって塾というものは少人数制であることが大前提となっていました。

中島：僕は結構周りの評判に流されやすいタイプで「いいよ！」と言われると「あ、そうなの」という感じで気持ちが動いてしまうので、グノにもそれで来たんです。でも、実際入ってみて思ったのは、中学からだ大学受験までは長い時間があるわけです。「それまで続けられるかな」って考えたんですけど、やっぱり「グノは続ける価値がある」と思えました。中3のときは関田先生でしたが、その頃からレベルが高くて意欲が湧く授業だったのでここで頑張ろうと思えたんです。

《グノーブルの良かったところは？》

樫野：演習中心の授業だったところです。多くの場合、予習をやってきてその解説をして授業はおしまいというのが他の塾や予備校の普通の授業なのですが、グノの場合は英語も数学も国語も演習を中心に授業が進められるところが決定的な違いであり、良さだと思います。そんな中で大きな気づきが随分ありました。英語の場合、後ろから訳し上げるのが当たり前だと思っていたのですが、グノに入って「英語は頭から読みこなしていくものだ」ということを知

って衝撃を受けました。実際にそれができるようになると、今までどれだけ非効率的な英文の読み方をしてきたかが分かります。当然読むスピードも速くなって長文でもどんどん読めるようになっていきます。これは大きな成果だったと思っています。

また僕の場合は、グノで学んで一番伸びた科目は国語でした。行村先生が提示される現代文の方法論というのは非常に明快で、どんな文章であっても行村先生の方法論に則れば安定した点数がとれるようになりました。古文や漢文は行村先生の人柄がよく出ている授業で、なにしろ楽しく覚えやすい、パワフルな授業でした。



中島 慎太郎くん 文Ⅰ（開成）

中島：受験が終わったからこそ言えることですが、一番良かったのは、良い意味でグノは厳しかった、ということです。学校でも英語の成績は上位だったのにグノの授業ではいつも苦労させられていました。本番ではしっかり手応えがあったので、グノの授業がどれだけ高度だったかを今更ながらに思い知っています。グ

ノの授業についていけば、東大英語は楽勝です。グノ生ならきっと、誰もがそう思っているんじゃないでしょうか。

眞鍋：中学の頃は英語が得意だったんです。ところが高校になって徐々に成績が下がって行き…。自分では苦手意識は決してなかったのになぜか読むスピードも上がらず、点数が取れない、そんな状態が長く続いていました。でも、グノに入って、グノの授業内演習をこなし、宿題をやって、復習もやっていると、結果としてかなりの英文を毎週読むことになって、いつのまにか速読もできるようになりました。速読できれば東大のように深い設問を考えることに頭が使えて、それで得点力もついたと思います。

納：グノの英語の場合、知識をちゃんと身につけているかとか、読み込みをやっているかとか、先生にすぐばれちゃうんです(笑)。いちいち調べられるわけじゃないんですけど、毎回の添削を通してとか、授業中当てられるので、それで先生は私たちのことをお見通しなんです。当てられるのは、本当はイヤなんです。でも、当てられて答えられなかったり間違えたりするのはもっとイヤだから「頑張ろう」という気持ちにもなりましたし、添削でいただくコメントから、自分だけでは気づけないことに気づけたりって、良いことの方が多かったと思います。

鄭：グノだと時間が上手に使えることです。予備校などだと時間が来れば授業はだいたいきっちり終わります。ところがグノの場合は授業の延長は普通です。時間よりも学習効果が優先されていて、1回の授業で完結するから学ぶべきことに集中できるし、復習もやりやすかったんです。

あと、先日グノのテキストやプリントを整理していたら自分でも驚く

ほどの量だったんです。自分一人じゃこれだけ質のそろった英文に触れるなんて絶対無理だったなと思います。多分、どここの塾にも負けない質と量の英文を読んで聞いて、そしてどこよりも英作をたくさん添削してもらったと思います。



樫野 平くん 文Ⅰ（開成）

樫野：そして音読ですよ。グノでは「目の前の誰かに伝えるつもりで音読」というのを推奨していて、これはしっかり毎日実戦してました。直前期には音読しながら自分の声がリスニングの声のように感じるくらい読み込みました。

眞鍋：私も直前期は音読しかやっていませんでした。とくに長文の多い東大英語の場合、速く読んで正確に理解することが私の一番大きな課題だったので、私にとって音読は常に欠かせないものとなっていましたね。始めてみる英文も、音読のスピードで読める力がついたと思ったときは本当に嬉しかったです。

山崎：僕は英語が苦手だったので、英文を前から読んで意味をとれるようになるまで苦労したんです。それ

をできるようにしてくれたのが、やっぱり音読だったと思います。黙読だとサッと読めているようでいて、実のところ分からないところは読み飛ばしているんですね。ところが声に出して読むと読み流すことができないので、自分の分かっているところが顕在化してくるというメリットがあります。また記憶が音として頭の中に残るのは、視覚的に記憶するより深く覚えられることを実感しました。

森：「英語ってカラダを使って学ぶものなんだな」ということを私はグノで学びました。音読がしっかりできるようになると、英語のリズムがカラダに染み付くので、英語が英語のまま分かるようになるんです。今年の東大の穴埋め問題でも、自然に答が分かっちゃう感覚がありました。頭の中で答が勝手に再生されて「あ、これだな」という感じなんです。これって、実際にグノの音声教材を使っている音読をやってないと分かっていただけないと思いますけど。

直井：そもそも英語を学ぶ本来の目的は使えるようになることです。そうした視点で考えると、目だけで英文を追いつながらどれだけ受験用の勉強をしたところで、本来の目的には近づけないわけです。グノの場合はこのあたりの発想が他の塾とはまったく違って、とことん使える英語を追求するというスタイルです。それを志向した次元の高い英語学習を受けられたことは幸せでした。もちろん当面の目標は東大合格でしたが、不思議なことに「受験勉強をしている」という感覚を持つことなく楽しみながら学べて、それでいて確実に力がついていました。

《受験英語と使える英語の違いは？》

中島：社会に出たら、受験問題が解けるだけの英語力じゃ仕方ないじゃ

5 期生 東大文系合格者インタビュー

ないですか。受験が終わってからも個人的に次に向かう英語の勉強を始めていますが、グノで学んだことは間違いなく土台になっていくと思いますね。

納：復習が音読やリスニング中心でしたから、日ごろから勉強をしているでも英語を受験科目としてではなく言語として認識していたように思います。友人などと日常的に会話をしている中で日本語では上手く言い表せないことがあった場合なども「あの英語の表現の方がピッタリだな」と思ったりすることあって、英語がカラダに入っているというのはこういうことなのかなと思うことです。この感覚を忘れずに持続する努力ができれば、確実に英語を自分のモノにできると確信しています。たぶん普通に受験勉強をしていたら、こうした感覚は持てなかったんじゃないでしょうか。



鄭 悠野くん 文Ⅰ（都立日比谷）

鄭：今思うと中山先生の授業は、単なる英語の勉強ではなくて、英語を使っていろんな教養を学ぶ勉強だったんだなとも感じています。自分じ

ゃ絶対に拾いきれないいろんなジャンルのトピックを毎週用意していたので、英語を学びつつも教養面でも幅が広がりました。

また僕は、大学卒業後には国際的な視野を持って弁護士の仕事をしていきたいと考えているので、聞くことと話すことに加えて、書く力を養えたことが、今後の自分に大きく役立つと思います。

グノの英作は構文にあてはめて書いていくのじゃなくて、どんどん自分の考えを書いていき、それを添削してもらえるんです。英語で書きながら、音読で馴染んだ表現が自然に、次々出てくるのに気付いたときには、もの凄い力を授けていただいているんだと感動しました(笑)。

森：実は私は、もともとは英語は苦手で、好きでもなかったんです。ところがグノに入ってから受験勉強だけでなく、これからはあらゆる面で「英語はできなくてはまずい。できて当たり前」ということに気がついたし、やれる、という自信がついたので、今後も継続的に英語の勉強は続けて行こうと思っています。話すこと以外の力は、すでにグノで身につけられたので、今後は話すことに力を入れた勉強をしていきます。

《授業効果を上げるには？》

鄭：1度グノを離れた時、「これでいいのかな？」という疑問と不安を感じるばかりで…。グノの授業は確かにハードでしたが「これをやっていれば絶対に大丈夫」と思うことができました。つまり、信頼感を持てるんです。いい意味で英語はグノに丸投げするのがいいと思います。グノの教材以外は、実際に一切手を出す必要はありませんから。

納：先生が私たちのことをよく見てくださいます。英語も数学も国語も、私の実力を一番よく分かって

くれているのはグノの先生だと信じていけばいいと思います。

眞鍋：私は予備校時代の友達が大絶賛していた、中山先生の授業を受けたいと思ってグノを選びました。ところが入室テストでは基礎クラスだったので、最初は中山先生には教わることができず、クラス分けテストまでの2か月は、英語をかなり頑張りました。「上のクラスに上がりたい」というのがその頃の原動力でしたが、今になって思うと、それまでとは異なる、新しい勉強法で英語を頑張ったあの時期に土台が整ったのだと思います。



眞鍋 朋子さん 文Ⅲ（香川県大手前）

中島：僕の場合も「上のクラスに上がりたい」というか「戻りたい」というのが一時期原動力でした。悪いのは僕自身なのですが、英語のクラスが最上位クラスの α から2つ下の $\alpha 2$ まで急落したことがあるんです。塾をかわろうかという考えさえよぎりましたが、グノの英語指導は信じていましたし、本当に悔しくて「このままでは絶対に終われない」という気持ちが芽生え、そこからかなり

気合を入れ直して頑張りました。グノの場合、受験学年でもクラス分けテストがあるから、1度 α に入ってからといったのんびりしてはいられません。でも、グノの先生は決して冷淡じゃないですよ。同じ学校の友人はクラス分けテストでは上がれなくて、秋の全国模試で成績を上げ、それでクラスを戻してもらっていました。

森：やっぱりやる気ですね。初めて α に入った時は、授業のスピードは速いし、周りの人はできる人ばかりだしで、自信喪失気味になっていました。そのころ本当は、 $\alpha 1$ に落としても良かったんですけど「でも、ここで妥協したら負けかな」と思い、なんとか皆について行けるよう努力しました。私がグノで学ぶ支えとしていたものは、悔しさを跳ね返すやる気なんです。

山崎：ここの授業を全部聞いて、全部吸収することができれば必ず東大に合格できるという確信です。

直井：忍耐強さじゃないでしょうか。たとえば音読が効果があると言われても、すぐにその効果が現れるものではありません。コツコツ頑張るにはそれなりの忍耐が必要です。実は、僕の場合、音読を毎日やれるようになったのは高3からなんです。中2からグノにいるのに(笑)。毎日やるのはしんどいですけど、そこを我慢してやり続けると、全国レベルでも負けない力が本当につくんで、先生の言うことを信じて辛抱強く続けることが肝心です。

《東大を目指す後輩にアドバイスを》

直井：グノで英語を習っている以上、忍耐強く、音読とここの授業の復習をしましょう。必ず伸びることは僕が保証します(笑)。

あと、全ての科目についてですが、長時間やったからといって伸びるわ

けではないので、自分で正しいやり方を見つけて、濃い時間を集中して過ごすことが大切だと思います。

山崎：やっぱりグノの先生を信じて音読と復習です。あと、計画性です。計画というのは、1日の計画であり、1ヶ月の計画であり、もっと言えば1年の計画です。おおまかでいいので、いつ、どこに自分はいる、という計画を立てて、それに向けて勉強することが大事です。



山崎 和人くん 文Ⅰ（駒東）

森：諦めないことです。東大は最後に英語が待っているわけですが、私は他の科目でちょこちょこ失敗したんですが、英語がよくできたのでその分がチャラになりました。ですから、グノで英語を学んだ人は、最後に英語に賭けられるんだから、安心して諦めないで、粘り強くやればいいと思います。

普段の勉強でも諦めないこと。難しい問題や苦手な科目から逃げたら絶対に力にはつからないと思います。**慥野：**僕は現役時代に慶應に受かっていまして、とても迷ったんです。でも、やはり東大を諦めきれない気

持ちがあって浪人することを決意しました。果たして自分と同じような後輩が出てくるかどうかは分かりませんが、事情が許すならば再受験を怖がらずに、最初に掲げた目標を諦めないで欲しいと思います。一番悩むのは、もう一年やって果たして東大に受かるかどうかなんですけれど、そういうときにも、グノの先生は僕たちをいつも見てくださるので適確に助言をしてくれます。現役生と同じクラスですけど、浪人生でもグノはちゃんと面倒を見てくれますし、グノに通えば演習もできるし、本当に効果的な勉強ができると思います。

鄭：僕は公立高校出身ですが、一貫高の人と比べると、どうしても学校で学んでいるカリキュラムに差が出ます。スピード的にも内容的にも。でも東大受験にはそのレベルが求められるんです。公立高校出身で東大を目指すなら早めに動いて自分に合った塾探しをすべきです。

納：受験とは直接関係ありませんが、私の学校にはある塾の宿題ばかりやっていて学校の勉強を捨てている人が結構いました。それはちょっと違うんじゃないかなと思います。受験に使わない科目でも高校時代に学べることをしっかり学んで、その上で受験勉強に励むべきです。

眞鍋：自己分析ができるようになることが大切です。たとえ模試の結果が悪くても、なぜこの結果になったか、今自分がやるべきことは何なのかを客観的に見られるようになることが大事なことでないでしょうか。

中島：常に軌道修正することです。テストをして点が悪かったり、思うように成績が伸びないのは、何かしらやり方が間違っているからです。そうしたところを客観的に見つめて軌道修正しながら勉強していれば、いつの間にかゴールに着いていると思います。

